



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年8月1日

上場会社名 日本ラッド株式会社

上場取引所 東

コード番号 4736 URL <https://www.nippon-rad.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大塚 隆一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画室長 (氏名) 土山 剛

TEL 03-5574-7800

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	745	7.9	34		15		3	
2022年3月期第1四半期	691		54		36		39	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	0.64	
2022年3月期第1四半期	7.47	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	3,972		2,518		63.4	476.46
2022年3月期	4,031		2,542		63.1	480.96

(参考)自己資本 2023年3月期第1四半期 2,518百万円 2022年3月期 2,542百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		5.00	5.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		5.00	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,480	5.0	60	6.0	100	32.2	65	240.2	12.30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	5,355,390 株	2022年3月期	5,355,390 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	69,556 株	2022年3月期	69,556 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	5,285,834 株	2022年3月期1Q	5,285,834 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の懸念がありつつも景気はゆるやかに持ち直していましたが、サプライチェーンの混乱や日米金利差拡大を背景にした円安による物価上昇など、景気回復への影響が懸念されます。

このような状況の中、当社はIoT事業について前事業年度後半より本格的に再開され始めたイベント・展示会等での直接顧客獲得に加え、SaaS、PaaS系サービスを中心としたオンラインでのセールス・マーケティング活動を強化、中でも前事業年度より顧客展開を開始した「JANUS Studio®」のオンラインウェビナーからの引き合いが好調に推移しており、官公庁向け案件を受注するなど、レガシーシステムのマイグレーションニーズの高まりを的確に捉え始めております。また急速な広がりを見せつつあるノーコード・ローコードDX導入のニーズについても、kintoneベースのビジネスソリューション事業において着実な展開を行っております。

この結果、当社の当第1四半期累計期間の売上高は、7億45百万円（前年同期比7.9%増）となりました。損益につきましては、営業損失34百万円（前年同四半期は54百万円の損失）、経常利益15百万円（前年同四半期は36百万円の損失）、四半期純利益3百万円（前年同四半期は39百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

「エンタープライズソリューション事業」

各業種向けの派遣常駐型システム開発及び受託請負型システム開発案件においては、既存大型顧客からの増員要望や開発案件の増加に注力した結果受注増となりました。基幹システム系開発については、引き合いが多数あるなか、リソース確保とスキルアップに重点を置きながら体制の見直しを行っております。その結果、売上高は5億円（前年同期比14.0%増）となりました。

「IoTインテグレーション事業」

インダストリアルIoT分野及び医療IoT分野においては、既存顧客及び新規顧客共に受注が増加いたしました。インダストリアルIoTについては展示会経由の引き合いが増加しております。また、医療機関向け自動再来受付システム等の販売・開発につきましても受注増となりました。自動車搭載セキュリティシステムのロイヤリティ収入は安定しておりますが、映像情報システム関連については、前年同期を下回る結果となり、売上高は2億45百万円（前年同期比2.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は33億36百万円となり、前事業年度末に比べ59百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が22百万円、仕掛品が10百万円増加し、受取手形、売掛金及び契約資産が1億万円減少したことによるものです。固定資産は6億35百万円となり、前事業年度末と同水準となりました。これは主に有形固定資産が1百万円、投資有価証券が6百万円、投資その他の資産のその他が1百万円増加しましたが、貸倒引当金の計上が8百万円増加したこと等によるものです。

この結果、総資産は39億72百万円となり、前事業年度末に比べ58百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は6億45百万円となり、前事業年度末に比べ6百万円減少いたしました。これは主に買掛金が21百万円、未払法人税等が30百万円、賞与引当金が48百万円減少しましたが、流動負債のその他が96百万円増加したことによるものです。固定負債は8億7百万円となり、前事業年度末に比べ28百万円減少いたしました。これは主に長期借入金40百万円減少し、退職給付引当金が11百万円増加したこと等によるものです。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は25億18百万円となり、前事業年度末に比べ23百万円減少いたしました。これは主に四半期純利益の計上および配当金の支払いによる利益剰余金の減少23百万円によるものであります。また、自己資本比率は63.4%（前事業年度末は63.1%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して22百万円増加し、26億98百万円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、96百万円(前年同期比25.1%減)となりました。これは主には売上債権及び契約資産の減少による収入1億円、仕入債務の減少による支出22百万円、受取利息及び受取配当金の受取額49百万円、法人税等の支払いによる支出34百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用された資金は、11百万円(前年同期比23.4%増)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出8百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、63百万円(前年同期比1.0%減)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出40百万円、配当金の支払いによる支出23百万円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料の公表時点において、2022年5月16日の決算短信で発表しました通期業績予想に変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,676,035	2,698,478
受取手形、売掛金及び契約資産	592,534	491,940
製品	9,106	17,729
仕掛品	6,459	16,524
原材料	34,547	29,674
その他	77,370	82,581
貸倒引当金	△83	△73
流動資産合計	3,395,969	3,336,856
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	11,940	11,438
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	13,237	14,885
有形固定資産合計	25,178	26,323
無形固定資産		
ソフトウェア	83,418	77,199
その他	12,055	18,142
無形固定資産合計	95,473	95,341
投資その他の資産		
投資有価証券	436,170	442,444
その他	194,168	195,586
貸倒引当金	△115,827	△124,156
投資その他の資産合計	514,512	513,874
固定資産合計	635,163	635,540
資産合計	4,031,133	3,972,396
負債の部		
流動負債		
買掛金	158,074	136,423
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払法人税等	39,198	8,729
賞与引当金	65,897	17,059
受注損失引当金	5,535	4,168
その他	263,273	359,565
流動負債合計	651,980	645,946
固定負債		
長期借入金	120,000	80,000
退職給付引当金	510,070	521,385
資産除去債務	2,039	2,043
長期未払金	200,815	200,815
その他	3,932	3,711
固定負債合計	836,857	807,955
負債合計	1,488,837	1,453,902

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,239,480	1,239,480
資本剰余金	973,222	973,222
利益剰余金	327,463	304,435
自己株式	△32,271	△32,271
株主資本合計	2,507,894	2,484,867
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	34,401	33,627
評価・換算差額等合計	34,401	33,627
純資産合計	2,542,296	2,518,494
負債純資産合計	4,031,133	3,972,396

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	691,319	745,712
売上原価	609,592	631,760
売上総利益	81,727	113,951
販売費及び一般管理費	136,570	147,961
営業損失(△)	△54,843	△34,010
営業外収益		
受取利息	57	57
受取配当金	17,703	49,104
その他	734	1,048
営業外収益合計	18,496	50,209
営業外費用		
支払利息	391	273
為替差損	257	—
営業外費用合計	649	273
経常利益又は経常損失(△)	△36,995	15,926
特別利益		
固定資産売却益	2,844	—
特別利益合計	2,844	—
特別損失		
固定資産除却損	62	—
特別損失合計	62	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△34,214	15,926
法人税等	5,297	12,524
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△39,511	3,401

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△34,214	15,926
減価償却費	14,731	11,261
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	11,891	△1,366
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	7,979	11,315
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△47,418	△48,838
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△153	△70
受取利息及び受取配当金	△17,761	△49,161
支払利息	391	273
為替差損益 (△は益)	17	△329
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2,844	—
有形固定資産除却損	62	—
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	142,851	100,593
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△11,538	△13,815
仕入債務の増減額 (△は減少)	△56,303	△22,377
その他	112,116	78,696
小計	119,808	82,107
利息及び配当金の受取額	17,143	49,161
利息の支払額	△624	△415
法人税等の支払額	△7,483	△34,316
営業活動によるキャッシュ・フロー	128,843	96,536
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,207	△2,473
無形固定資産の取得による支出	△6,093	△8,236
貸付金の回収による収入	—	318
その他	△650	△650
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,951	△11,042
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△40,000	△40,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△216
配当金の支払額	△24,007	△23,164
財務活動によるキャッシュ・フロー	△64,007	△63,380
現金及び現金同等物に係る換算差額	58	329
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	55,942	22,443
現金及び現金同等物の期首残高	2,921,033	2,676,035
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,976,976	2,698,478

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）

当第1四半期累計期間において、新たな追加情報の発生及び前事業年度の有価証券報告書に記載した情報等についての変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	438,674	252,645	691,319	—	691,319
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,602	1,030	3,632	△3,632	—
計	441,276	253,675	694,952	△3,632	691,319
セグメント利益又は 損失(△)	34,082	△312	33,770	△88,613	△54,843

(注) 1.セグメント利益又は損失の調整額△88,613千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	500,276	245,435	745,712	—	745,712
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,352	4,661	7,014	△7,014	—
計	502,629	250,097	752,726	△7,014	745,712
セグメント利益又は 損失(△)	73,378	△11,411	61,966	△95,976	△34,010

(注) 1.セグメント利益又は損失の調整額△95,976千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。